

環境審議会（要旨）

平成30年度第2回成田市環境審議会会議録

1 日 時 平成30年9月25日（火）午前10時00分～午前11時30分

2 場 所 成田市役所6階中会議室

3 出席者

（委員）

本橋敬之助会長、片岡孝治委員、富井柁夫委員、小島猛委員、宮崎廣文委員

豊田いつ子委員、印宮昭夫委員、根本祥宏委員、長谷川吉昭委員、綿貫沢委員

杉原文哉委員、醍醐貴大委員、林大八郎委員、岩本晃郎委員

（成田市）

環 境 部 石井部長

（事務局）

環境計画課 保立課長、寺本課長補佐、渡部係長、東係長、中里副主査、若田副主査

環境対策課 堀越課長

クリーン推進課 黒田課長、八代主幹、山倉主査

環境衛生課 加藤課長

4 議題

(1) 一般廃棄物の減量化に向けての検討について

(2) その他

5 傍聴者 2名

6 会議次第

1. 開会

2. 議事

(1) 一般廃棄物の減量化に向けての検討について

(2) その他

3. 閉会

議事（要旨）

（１）一般廃棄物の減量化に向けての検討について

黒田クリーン推進課長から今後のスケジュールの説明、事前に送付した資料について意見を求めた。一部質問については、１２月の審議会において回答することとなった。

議題（１）において出された質問は次のとおり。

（○・・・委員の発言 →・・・事務局の発言）

○資料１４ページのリサイクルについて、リサイクル団体の構成員を伺いたい。

→資料が手持ちになく、団体数を回答します。平成２７年度は１５８団体、平成２８年度は１５７団体、平成２９年度は１６０団体です。団体は、各小学校、子供会、高齢者クラブ、各地域となっております。

○リサイクル団体に未加入の高齢者クラブや各区に対し、リサイクル団体への加入を進めてもらいたい。

→団体の総会において、リサイクルの必要性を説明し、リサイクル団体への加入の呼びかけを行っています。

○ごみ処理の公平性という観点から有料化を実施するべきである。また、他の委員の意見を聞かせてもらいたい。

○資料８ページの注釈の「適合物以外のもの」とは何か。また、資料９ページの、平成２９年度の地区ごとの排出量の原因は何か。

→「適合物以外のもの」とは、プラスチック製容器包装ではないプラスチック、例えば子供のおもちゃなどです。また、ライターやペットボトルに入れた医療用廃棄物、鉄類などの禁忌品です。資料９ページの数値の差について、大栄地区は合併前まで、プラスチック製容器包装は可燃ごみとして処理を行っていたことが影響しているのではないかと考えています。こちらについては、区長回覧等で、適切なおごみの分別を依頼しています。

○資料を見て感じたことは、成田市がごみの問題で困っていることは理解できるが、具体的に何について困っているかが伝わってこない。市民に対して、何について困っているのか、何をしてほしいのかを具体的に伝えたほうが、市民も協力しやすいのではないかと。また、市民の理解を得るため、問題の解決のために、データの整理や考察を行うべきである。

→データとして不足している部分はありますが、可燃ごみの中に再利用できるものが多いことは、ごみ組成調査で明らかになっているので、今後とも分別の徹底を促していきます。また、データ整理についても、掘り下げて分析を行いたいです。

○プラスチックごみと紙ごみについて、適正分別を行ってもらうため、周知を徹底する必要があります。また、プラスチックの排出量が減っており、可燃ごみの排出量は横ばいであるため、プラスチックごみは減っているのではないかと。プラスチック製容器包装がどれだけ排出されているのか、プラスチック製容器包装のリサイクル状況が把握できる資料はあるのか。

→プラスチック製容器包装については、適正な分別に向けて周知を徹底します。紙ごみについては、回覧やホームページ等で情報を掲載し、スマートフォンのアプリも配信し、分別の周知を図っています。組成分析は毎月行っているが、排出されたプラスチック製容器包装の中で、どれだけのものが資源となるか把握することが難しく、これについては、今後の課題であると考えています。

○産業まつり等で、ごみについての啓発を行っているのか。

→産業まつり、消費生活展で行っています。消費生活展では、リサイクルで作られたちり紙を配布し啓発を行っています。リサイクルの運営協議会があるので、そこで展示などを、年2回は行い、リサイクルを呼び掛けているところです。

○啓発のイベントを行うときに、どのごみが、どのごみ袋で捨てるか、わかりやすくするため、見本を展示してほしい。また、分別と収集日が記載された資料について、使う人のことを考えた資料作りをしていただきたい。

○プラスチックの処理現場について、可能であれば、視察をさせていただきたい。

→施設の視察を希望するのであれば、協力させていただきます。現在のごみ分別は開始してから5年が経過し、問題点が出てきているので、分別や収集回数、費用の問題など、皆様から意見をいただきたいと考えています。

○広報や区長回覧で特集を掲載しているが、情報の幅が広いと感じる。広報等に掲載するときは、話題を1つに絞って掲載したらどうか。また、成田市は市外から粗大ごみが持ち込まれていると聞くが、これは粗大ごみの手数料が無料であることが関係していると思う。粗大ごみが市外から持ち込まれることを理由として、手数料を有料とするのであれば、広報等で市民への周知を行わなければ、難しいと思う。

○成田市は、生ごみの堆肥化するなどの、リサイクルと循環につながるものを提示するべきである。また、ペットボトルの蓋の回収が一時期流行っていたが、現在ペットボトルの収集後どのように処理をしているのか聞きたい。廃プラについて、日本は海外に輸出しているが、日本の廃プラの処理は、日本で考えなければならない。企業は、ペットボトルを薄くしたり、ペットボトルの原料に植物由来のものを使ったりしているので、このようなことを参考にして、資源としてプラスチックを使ったほうがいい。

○プラスチックごみについて、マイクロプラスチックなど様々な環境問題が生じている。現在、プラスチックは多くのものに使われている。成田市から、国や県、企業に、プラスチックの種類を減らすなどの提案をすることも必要ではないか。

○国の容器包装リサイクル法の運用について、自治体に押し付けている部分があり、様々な自治体が苦勞をしている。成田市として、分別が徹底されていなければ啓発を行い、分別を徹底させるのか、それとも、別の収集方法を考えるのか、対応を検討してほしい。

○先日、地元の会議で、市外の人が成田市指定のごみ袋を使い、成田市の集積所にごみを捨てているという報告があった。このような事例はいくつかあるので、把握しておいてほしい。また、何か対策があれば、対応をお願いしたい。

○新聞紙や雑誌は、リサイクルを行いトイレットペーパーなどになることはわかるが、ペットボトルやプラスチック製容器包装などは、最終的にどのようなものになるのか、わかるように啓発をしなければならない。他にも、割れたガラスや色付きのガラスは、どのようなリサイクルをしているのか。具体的に市民に伝えると、リサイクルの意識の向上になるのではないか。成田市は、こう

いったPRは行っているのか。

→ペットボトルについては、ポロシャツなどになることを啓発しています。また、いずみ清掃工場の施設見学の際にもPRを行っています。プラスチック製容器包装について、コンテナのバレットやプランターに再利用されていることを啓発してきたいと考えています。リサイクルに関する「見える化」も考えていきます。

○環境問題の根本には、コミュニケーション問題がある。市民への働きかけがうまくいかないときは、コミュニケーションがうまくいっていないので、コミュニケーションの在り方を考え、コミュニケーションを図るための、仕組みを考えなければならない。例えば、ごみ袋に名前を書かなければ、収集しなかったり、不適切なごみがあれば、その集積所の評価を下げたりするなどの取組を行っている自治体もある。また、成田市は今後成長する都市なので、相対的ではなく、絶対的な視点で長期的な視野で、リスクを管理し、法律を先取りする形で、リスクへの対応を行うことが重要であると考えている。

○9月からごみ分別アプリの配信が始まっているが、どのくらいダウンロードされているのか。また、資料の新聞記事の中で、環境省の基本方針で、「市町村は必要に応じて手数料の徴収を行う」とされているものを「原則的に徴収」などの記述に改める検討をしているとあるが、成田市はどのような根拠で、無償での収集を行っているのかを教えてください。私はごみの有料化に反対。千葉県内では有料化が比較的進んでいるが、東京、神奈川、埼玉ではそれほど進んでいない。有料化の検討を行うときは、千葉県内の市町村だけではなく、視野を広げて検討すべきである。また、有料化した場合としていない場合等の取り組みなど幅広く検討すべきであると思う。

○資料の可燃ごみ処理経費について、設備の減価償却は入っているのか。

→アプリについて、先週末時点で802件ダウンロードされている。アプリに関する啓発について、千葉日報や民間の情報誌、市役所、公民館、文化会館、中台体育館、国道51号線の電光掲示板で広報を行いました。資料の可燃ごみ処理経費については、減価償却は含まれていません。

○粗大ごみと自己搬入ごみについて、有料と無料のメリットとデメリットがそれぞれあると思うが、調べて情報を共有してほしい。

○家庭ごみ有料化は、家庭ごみの排出量の削減やごみ処理の費用負担の公平性の確保などのメリ

ットがありますが、市民の金銭的負担の増加や不法投棄の増加などのデメリットもあします。今後どうしていくかを考える必要があります。

○家庭ごみの有料化のデメリットで、大きいものは不法投棄ではないかと思う。千葉県の中で、四街道市と佐倉市だけで90%以上の不法投棄がされている。周辺が有料化をすると、さらに集中するのではないか。また、人員の管理という問題も生じる。これらの問題も考えていかなければならない。

○審議の内容ではないが、ニュータウンで、ごみの収集車の後ろの部分が開いたまま走行していたので、閉じて走行するようにしてもらいたい。また、以前私の実家で、ごみ袋に名前を書く取組を行っていた時期があった。しかし、何か原因があり、やめてしまったので、名前を記入することは難しいのではないかと思う。

○デメリットについて様々な話がでたが、仕組みを変えたうえで有料化をすることが必要であると思う。成田市はこれからも成長することに加えて、成田空港もあるので、他市町村に合わせるのではなく、リーダーシップを持って、環境問題に取り組むべきだと思う。

○お願いになるが、電気式の生ごみ処理機を使っているが、水分がなくなり、容積もかなり減るのでごみ減量に効果があると思うが、金額が高いので、もう少し補助率が上がれば、普及率も上がるのではないかと思う。補助率をあげることを検討していただきたい。

(2) その他

- ・今後の環境審議会のスケジュールについて